

Ⅰ. 市民ニーズ調査の結果

指宿市における市民ニーズ調査の結果を下記に整理します。

1. 自治会長アンケート調査

(1) 調査概要

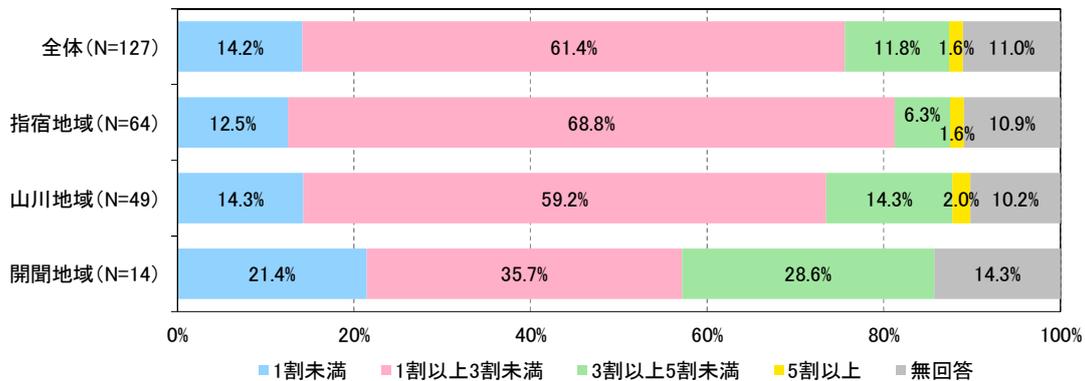
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、主に高齢者の要望を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	自治会長（200 地区）
調査方法	アンケート調査（郵送配布・郵送回収）
実施期間	令和5年7月18日(火)～7月31日(月)（2週間）

(2) 調査結果

■交通弱者について

- 自治会長 200 人に対し、約 6 割の 127 人から回答を得た。
- 交通弱者が 5 割以上いると回答した自治会は全体で 1.6%であった。地域別に見ると、特に開聞地域で交通弱者の割合が高い傾向にある。

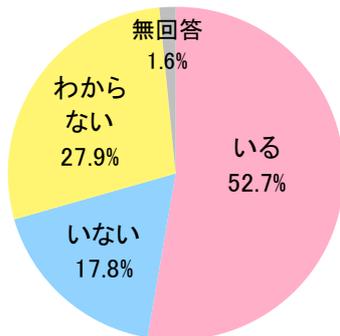
問 1-2. 交通弱者



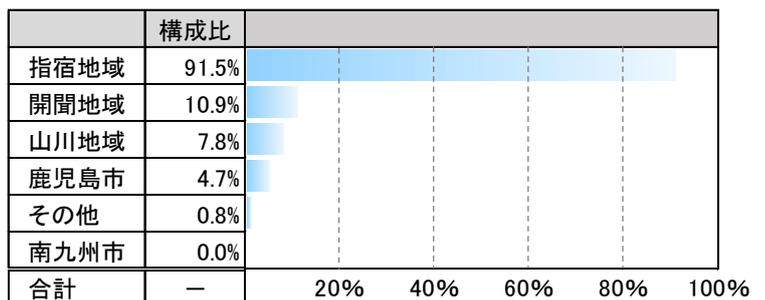
■外出目的・公共交通の利用状況

- 日常の外出において、公共交通を利用される方は半数以上に上り、外出の目的地は指宿地域が 9 割以上と最も多かった。

問 2-2. 公共交通を日常的に利用している方



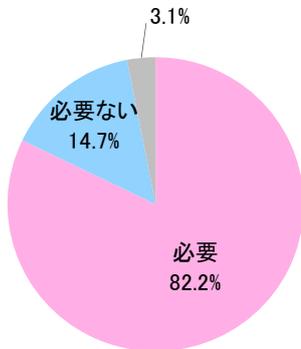
問 2-3. 日常生活の目的地



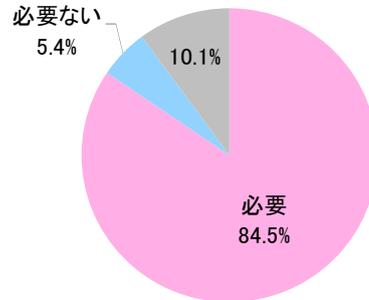
## ■公共交通の必要性

- 公共交通について、「今」も「将来」においても「必要」と回答した人が8割以上であった。

問 3-1. 公共交通の必要性【今】

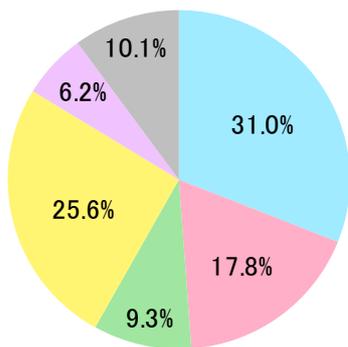


問 3-1. 公共交通の必要性【将来】



## ■今後の移動手段

- 今後の移動手段については、バスの充実を望む人が約3割と最も多く、次いで、家族や知人の送迎や自分の運転で移動できることを望む人が約25%となった。



問 3-2. 今後の移動手段について

■	路線バスやイッシーバスのバス停や本数が充実している
■	あいタクのような予約型乗合タクシーサービスが充実している
■	必要ときにタクシーを利用できる(バスや乗合タクシーよりは高価)
■	家族・知人の送迎や自分の運転で移動できる
■	わからない
■	無回答

## ■高齢者からの要望

- 特に高齢者からは、「待合環境が悪く利用しづらい」や「停留所までが遠く利用しづらい」、「運行時間帯が悪く利用しづらい」といった意見が寄せられた。
- また、「利用方法がわからない」という意見も一定数寄せられた。

問 3-3. 高齢者について、困っていること

	構成比	
停留所の待合環境が悪く(屋根やベンチがない等)、利用しづらい	40.3%	
停留所までが遠く、利用しづらい	34.1%	
バスやあいタクの運行時間帯が悪く、利用しづらい	29.5%	
バスやあいタクの運行ルートが悪く、利用しづらい	24.8%	
あいタクの利用方法がわからない(予約の仕方がわからないなど)	20.9%	
バリアフリー対応になっておらず利用しづらい	10.1%	
運賃が高く利用しづらい	7.8%	
路線バスの利用方法がわからない(乗り方が分からない、時刻表が読めないなど)	5.4%	
鉄道の利用方法がわからない	2.3%	
合計	—	10% 20% 30% 40% 50%

## 2. 市民アンケート調査

### (1) 調査概要

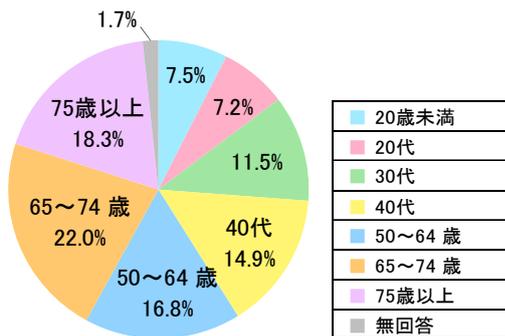
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、市民の要望を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	15歳以上の市民（1,500名）
調査方法	アンケート調査（郵送配布・郵送回収）
実施期間	令和5年7月18日(火)～8月4日(金)（18日間）

### (2) 調査結果

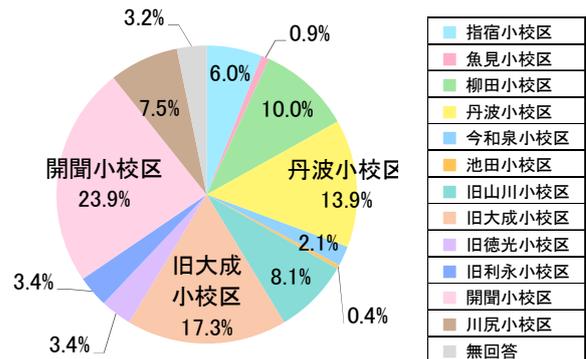
#### ■回答者属性

- 調査対象者 1,500 人のうち、約 3 割の 469 人から回答を得た。
- 回答者の年齢は「65～74 歳」が 2 割以上で最も多く、次いで「75 歳以上」となった。
- 居住地は「開聞小校区」が 2 割以上で最も多く、次いで「旧大成小校区」、「丹波小校区」となった。

問 10-2. 年齢



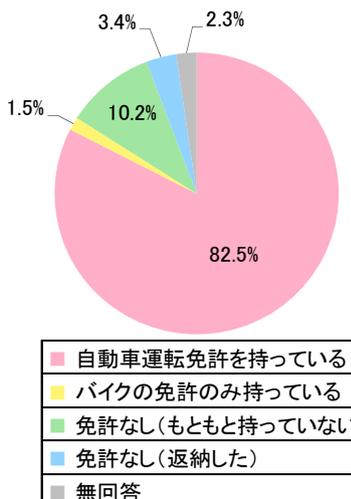
問 10-4. お住まいの地域



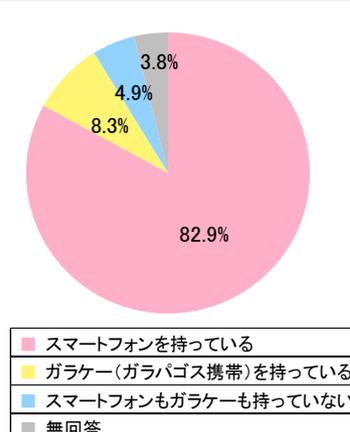
#### ■自動車免許・携帯電話の保有状況・コロナ禍を経た外出頻度の変化

- 「自動車運転免許を持っている」と回答した人は 8 割以上であった。
- 「スマートフォンを持っている」人は約 8 割「ガラケーを持っている」人は約 8%であった。
- コロナ禍を経た外出頻度の変化が「あった」と回答した人、「なかった」と回答した人は、ほぼ半数ずつであった。

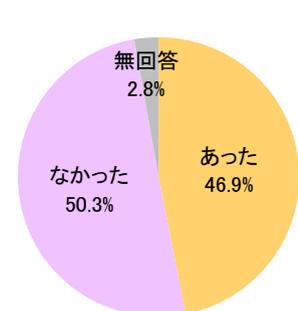
問 7. 自動車免許の保有状況



問 8. 携帯電話の保有状況



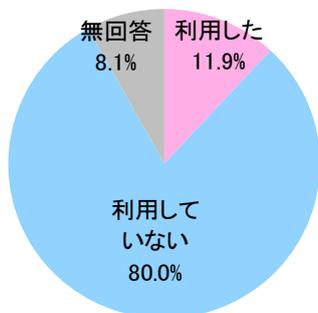
問 4-1. コロナ禍を経た外出頻度の変化



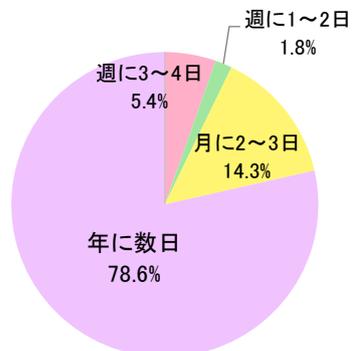
## ■公共交通の利用状況

- 直近 1 年間に於いて、公共交通を「利用した」と回答した人は約 1 割、「利用していない」と回答した人は約 8 割であった。
- 公共交通を利用した人のうち、利用頻度は「年に数日」が 7 割以上と最も多かった。

問 5-1. 公共交通利用状況



問 5-2. 公共交通利用頻度



## ■公共交通について、不便な点・不満な点

- 公共交通の不便・不満な点は、「乗りたい時間に運行していない」が約 36%で最も多く、次いで「所要時間がかかる」、「自宅や目的地から停留所が遠い」となった。
- また、「特に不便な点や不満な点はない」と回答した人も約 17%という結果となった。

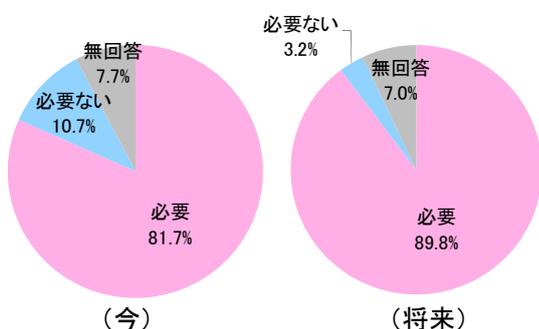
問 5-3. 不便な点や不満な点

不便な点や不満な点	回答数	構成比
乗りたい時間に運行していない	171	36.5%
特に不便な点や不満な点はない	84	17.9%
公共交通では、所要時間がかかる	83	17.7%
自宅や目的地から停留所が遠い	77	16.4%
行きたい場所に運行していない	62	13.2%
その他	48	10.2%
運賃・利用料が高い	36	7.7%
停留所の待合環境が悪い	35	7.5%
JR へ乗り継ぎがしにくい	32	6.8%
利用方法がわからない	32	6.8%
乗り降りが大変	19	4.1%
バス同士の乗継ぎがしにくい	13	2.8%
合計	692	—

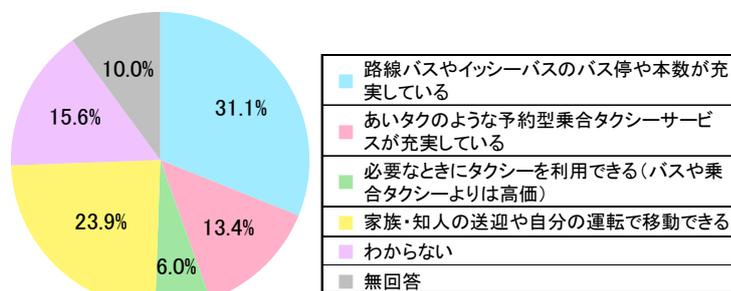
## ■これからの公共交通について

- 公共交通について、今時点で「必要」だと回答した人は約 8 割、将来的に「必要」と回答した人は約 9 割であった。
- 今後の移動手段については、バスの充実を望む人が約 3 割と最も多かった。

問 6-1. 公共交通の必要性



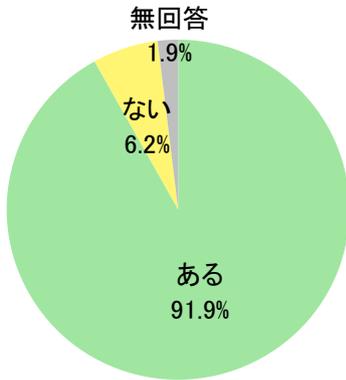
問 6-2. 今後の移動手段について



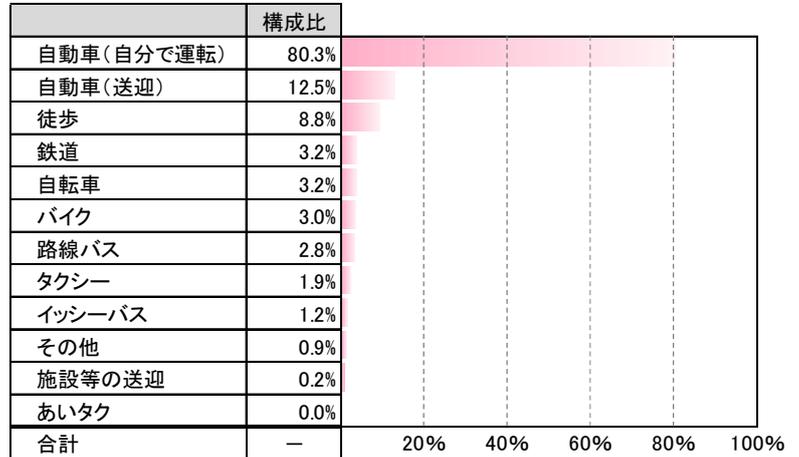
■ 買い物を目的とする移動について

- 買い物を目的とする外出が「ある」と回答したのは約 9 割であった。
- 買い物時の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が 8 割以上と最も多く、次いで「自動車（送迎）」となった。

問 2-1. 買い物を目的とする外出



問 2-2. 買い物時の移動手段



- 主な買い物先としては、市内全域から指宿地域の商業施設が利用されている結果となった。一方で、開聞地域においては地域内での商業施設利用も約 3 割と多い結果となっている。

問 2-2. 小学校区別の主な買い物先

		指宿地域	山川地域	開聞地域	鹿児島市	南九州市	その他
指宿地域	指宿小校区	100.0%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%
	魚見小校区	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	柳田小校区	95.3%	0.0%	0.0%	9.3%	0.0%	0.0%
	丹波小校区	91.7%	0.0%	1.7%	16.7%	0.0%	1.7%
	今和泉小校区	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
	池田小校区	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
山川地域	旧山川小校区	92.1%	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	2.6%
	旧大成小校区	76.0%	16.0%	0.0%	12.0%	1.3%	1.3%
	旧徳光小校区	84.6%	23.1%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%
	旧利永小校区	86.7%	0.0%	6.7%	6.7%	0.0%	0.0%
開聞地域	開聞小校区	65.7%	2.9%	34.3%	6.9%	1.0%	1.0%
	川尻小校区	54.5%	21.2%	27.3%	12.1%	0.0%	0.0%

問 2-2. 地域別のよく行く買い物先(上位 5 施設)

指宿地域 (N=143)

施設名	票数
ニシムタ	41
タイヨー	35
サンキュー	35
コスモス	33
プラッセだいわ	26

山川地域 (N=141)

施設名	票数
ニシムタ	76
コスモス	42
タイヨー	26
サンキュー	21
プラッセだいわ	11

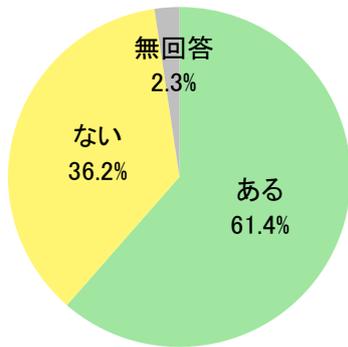
開聞地域 (N=135)

施設名	票数
Aコープかいもん店	45
ニシムタ	41
コスモス	29
タイヨー	12
サンキュー	8

■通院を目的とする移動について

- 通院を目的とする外出が「ある」と回答したのは約6割であった。
- 通院時の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が約8割と最も多く、次いで「自動車（送迎）」となった。

問 3-1. 通院を目的とする外出



問 3-2. 通院時の移動手段

移動手段	構成比
自動車(自分で運転)	78.8%
自動車(送迎)	11.8%
徒歩	5.2%
タクシー	3.1%
路線バス	2.8%
その他	2.8%
バイク	2.1%
自転車	1.7%
施設等の送迎	1.7%
イッシーバス	1.0%
鉄道	0.7%
あいタク	0.0%
合計	-

- 主な通院先としては、市内全域から指宿地域の医療施設が利用されている傾向にあるものの、山川地域（特に旧山川小校区・旧利永小校区）及び開聞地域では、地域内の医療施設も利用されている結果となった。

問 2-2. 小学校区別の主な通院先

		指宿地域	山川地域	開聞地域	鹿児島市	南九州市	その他
指宿地域	指宿小校区	82.4%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	0.0%
	魚見小校区	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	柳田小校区	88.9%	0.0%	0.0%	14.8%	0.0%	7.4%
	丹波小校区	93.9%	0.0%	3.0%	9.1%	3.0%	0.0%
	今和泉小校区	88.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	池田小校区	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
山川地域	旧山川小校区	61.5%	19.2%	3.8%	11.5%	3.8%	7.7%
	旧大成小校区	74.5%	12.8%	2.1%	8.5%	4.3%	0.0%
	旧徳光小校区	81.8%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%
	旧利永小校区	76.9%	23.1%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%
開聞地域	開聞小校区	63.4%	7.0%	21.1%	11.3%	1.4%	1.4%
	川尻小校区	52.2%	8.7%	26.1%	17.4%	4.3%	0.0%

問 2-2. 地域別のよく行く買い物先(上位 5 施設)

指宿地域 (N=90)

施設名	票数
指宿医療センター	17
生駒外科医院	12
いぶすき内科	10
指宿浩然会病院	9
今林整形外科病院	7

山川地域 (N=97)

施設名	票数
指宿医療センター	15
指宿おおしげ内科	10
生駒外科医院	9
宇宿ひふ科クリニック	6
指宿脳神経外科	5

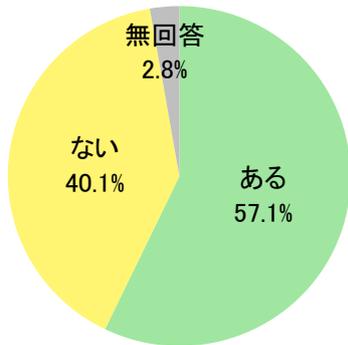
開聞地域 (N=94)

施設名	票数
指宿医療センター	14
宮菌クリニック	8
山川病院	6
濱田洋一郎医院	6
いぶすき内科	5

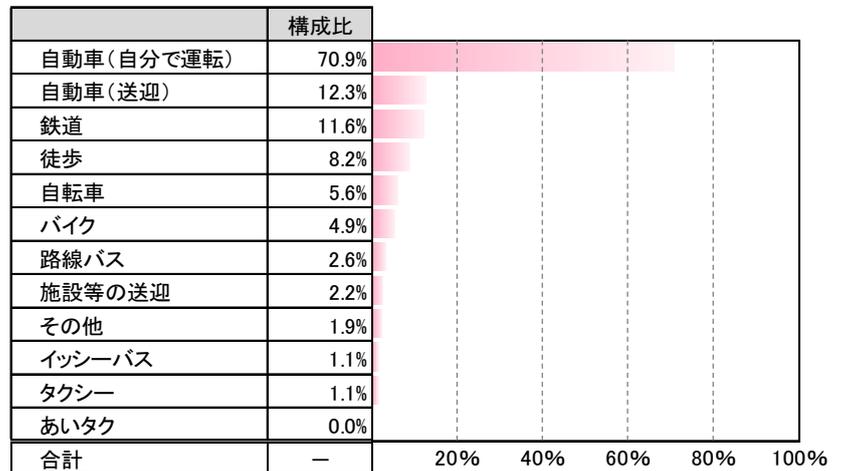
■通勤・通学を目的とする移動について

- 通勤・通学目的とする外出が「ある」と回答したのは約6割であった。
- 通勤・通学時の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が約7割と最も多く、次いで「自動車（送迎）」となった。

問 3-1. 通勤・通学を目的とする外出



問 3-2. 通勤・通学時の移動手段



- 主な通勤・通学先としては、市内全域から指宿地域へ向かう傾向にあるものの、山川地域及び開聞地域では、地域内での通勤・通学者も3~4割程度見られた。

問 2-2. 小学校区別の主な通勤・通学先

		指宿地域	山川地域	開聞地域	鹿児島市	南九州市	その他
指宿地域	指宿小校区	78.6%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	7.1%
	魚見小校区	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	柳田小校区	76.9%	7.7%	0.0%	11.5%	3.8%	0.0%
	丹波小校区	58.8%	8.8%	5.9%	17.6%	0.0%	8.8%
	今和泉小校区	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	池田小校区	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
山川地域	旧山川小校区	36.8%	42.1%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%
	旧大成小校区	28.8%	42.3%	7.7%	9.6%	1.9%	7.7%
	旧徳光小校区	27.3%	54.5%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%
	旧利永小校区	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
開聞地域	開聞小校区	45.5%	12.1%	28.8%	1.5%	10.6%	4.5%
	川尻小校区	20.8%	12.5%	33.3%	12.5%	16.7%	0.0%

### 3. 主要施設ヒアリング調査

#### (1) 調査概要

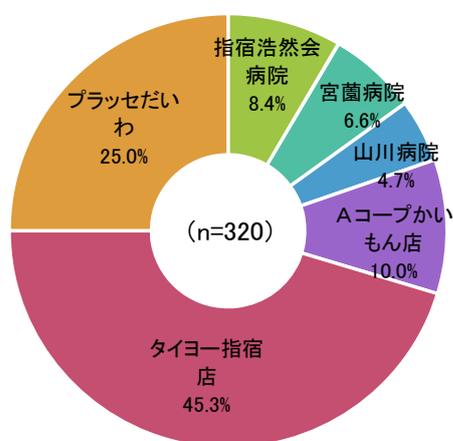
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、主に各施設への移手段を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	市内主要施設利用者 (対象施設：指宿浩然会病院、宮園病院、山川病院、A コープかいもん店、タイヨー指宿店、プラッセだいわ)
調査方法	直接聞き取り調査
実施期間	令和5年7月12日(水) [天候：晴]

#### (2) 調査結果

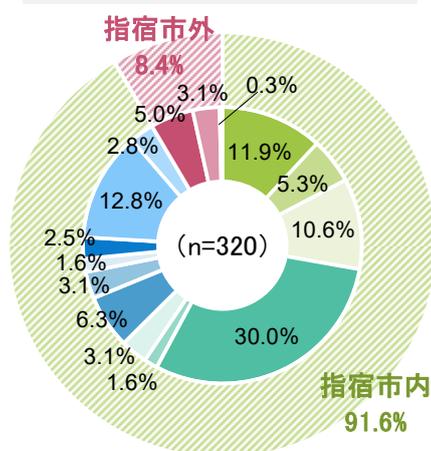
##### ■回答者属性

- 調査日当日に対象施設を利用していた人のうち、320人から回答を得た。
- 回答は「タイヨー指宿店」で最も多く獲得し、次いで「プラッセだいわ」、「A コープかいもん」となった。
- 回答者の年齢は65歳以上が6割以上を占めた。
- 居住地は「丹波小校区」が約3割で最も多く次いで「開聞小校区」、「指宿小校区」となった。

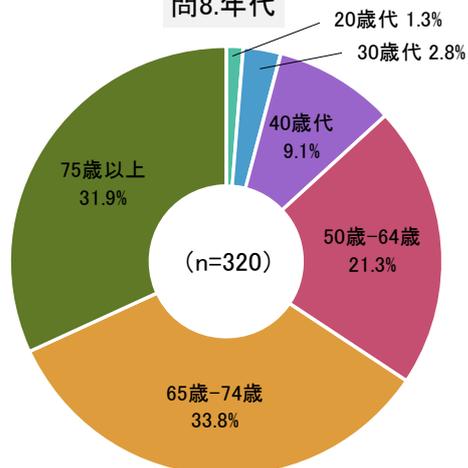
回答者数



問1. お住まいの地域



問8.年代

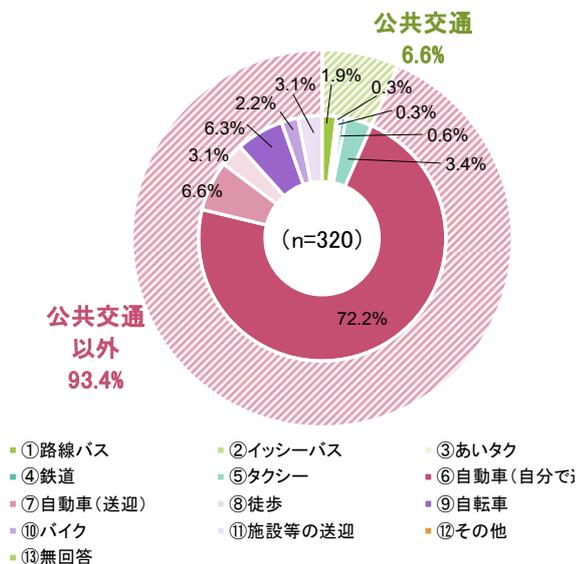


- ①指宿小校区
- ②魚見小校区
- ③柳田小校区
- ④丹波小校区
- ⑤今和泉小校区
- ⑥池田小校区
- ⑦旧山川小校区
- ⑧旧大成小校区
- ⑨旧徳光小校区
- ⑩旧利永小校区
- ⑪開聞小校区
- ⑫川尻小校区
- ⑬鹿児島市
- ⑭南九州市
- ⑮その他
- ⑯無回答

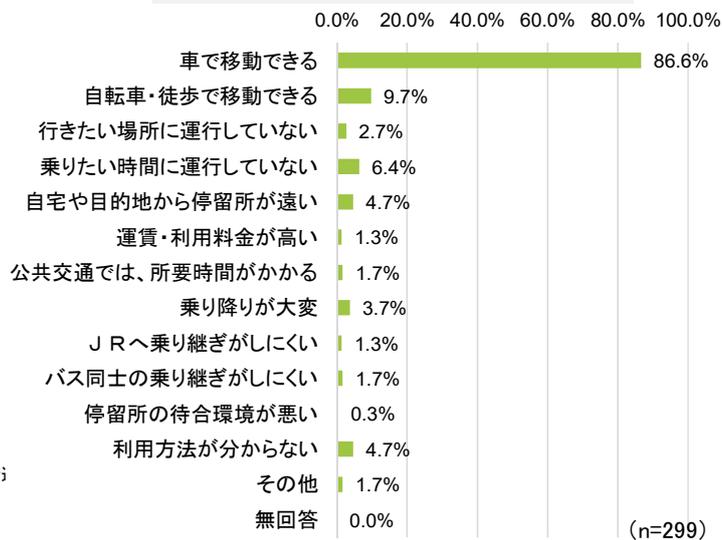
## ■ 移動手段

- 調査日当日の移動手段について、公共交通を利用した人は約 6%に留まり、そのうち「タクシー」を利用した人が 3.4%と最も多かった。
- 公共交通を利用しない理由としては、「車で移動できるから」という回答が 8 割以上と最も多かった。

問3.今日の主な移動手段



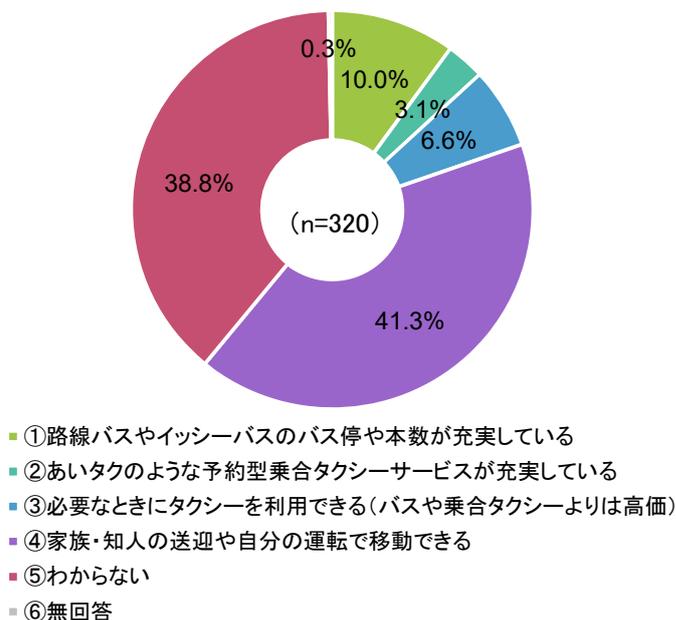
問4.公共交通を利用しない理由(複数回答)



## ■ 今後の移動手段

- 今後の移動手段については、「家族・知人の送迎や自分の運転で移動できる」状態を望む人が約 41%と最も多く、次いで「わからない」が約 38%となった。

問6.今後の指宿市の移動手段について



## 4. 高等学校アンケート調査

### (1) 調査概要

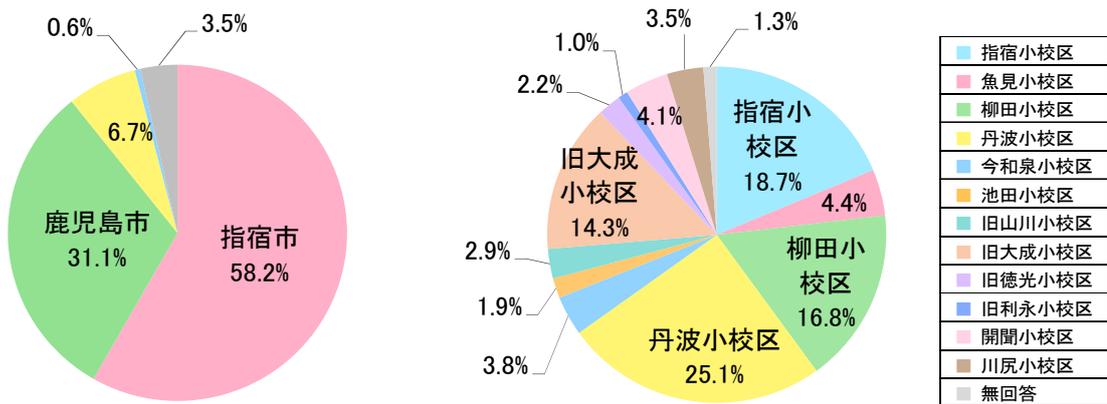
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、主に高校生の通学要望を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	市内の高校の生徒 (対象学校：指宿高校、指宿商業高校、山川高校、指宿特別支援学校)
調査方法	アンケート調査（直接配布・直接回収）
実施期間	令和5年7月下旬（夏季休暇前）

### (2) 調査結果

#### ■回答者属性

- 市内の高校生 789 人に対し、約 96% の 757 人から回答を得た。
- 回答者の居住地は「指宿市」が半数以上を占め最も多く、次いで「鹿児島市」が約 3 割となった。
- 市民の居住地域は「丹波小校区」が約 25% で最も多く、次いで「指宿小校区」となった。

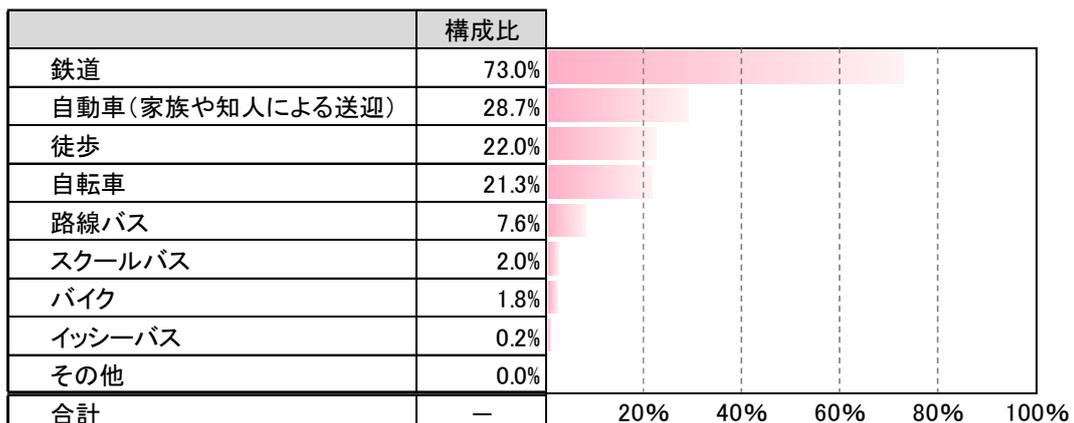
問 1-4. お住まいの地域



#### ■通学時の移動について

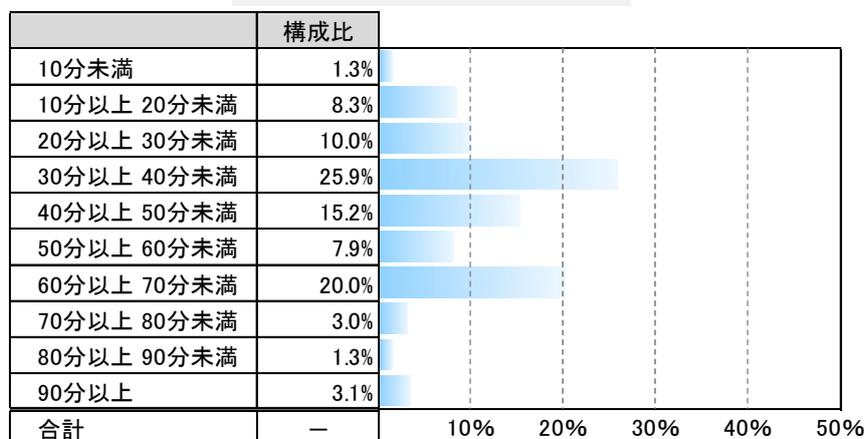
- 登校時の移動手段について、「鉄道」と回答した人が 7 割以上で最も多く、次いで「自動車（家族や知人による送迎）」、「徒歩」となった。

問 2-1. 登校時の移動手段



- 登校にかかる時間としては、「30分以上 40分未満」が約25%で最も多く、次いで「60分以上 70分未満」となった。

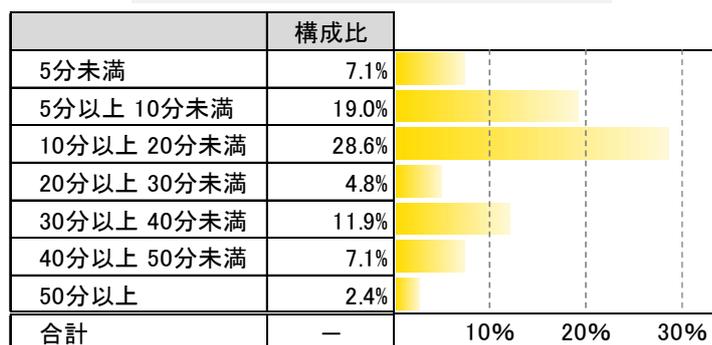
問 2-1. 登校にかかる時間



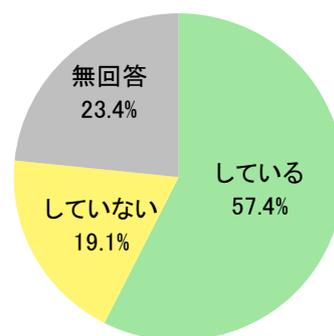
■ 通学時のバス利用について

- 通学時にバスを利用している人のうち、自宅から乗車バス停までの所要時間は「10分以上 20分未満」の人が最も多く、バス定期券を購入している人が半数以上となった。

問 2-3. 自宅からバス停までの所要時間



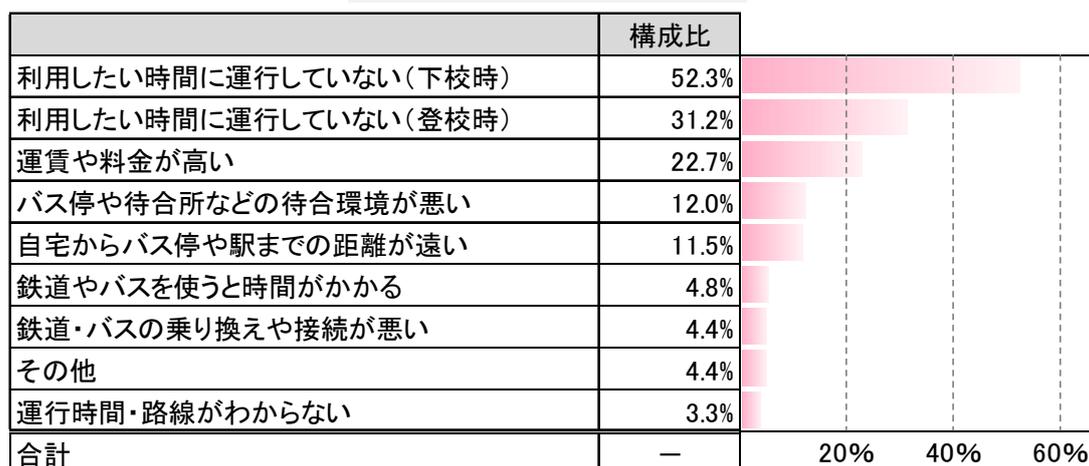
問 2-3. バス定期券購入状況



■ 公共交通について、不便な点・不満な点

- 公共交通の不便・不満な点は、登校時・下校時共に「乗りたい時間に運行していない」が最も多く、次いで「運賃や料金が低い」となった。
- また、「運行時間・路線がわからない」と回答した人も約3%見られた。

問 4-1. 不便な点や不満な点



## 5. イッシーバス及び路線バス利用者ヒアリング調査

### (1) 調査概要

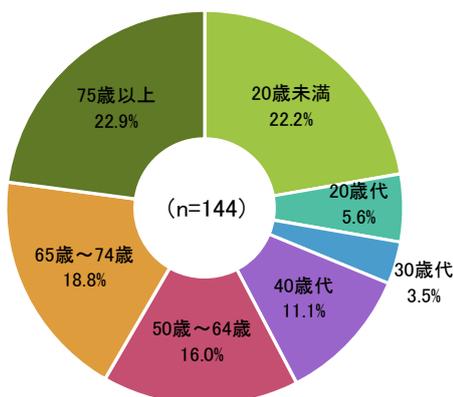
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、バスの利用状況や利用者の要望を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	イッシーバス及び路線バス利用者
調査方法	OD 調査・車内簡易アンケート調査
実施期間	令和5年7月11日(火) [天候：晴一時雨] ※イッシーバス小牧～ニシムタ指宿店線のみ7月12日(水) [天候：晴] (運行日を考慮)

### (2) 調査結果

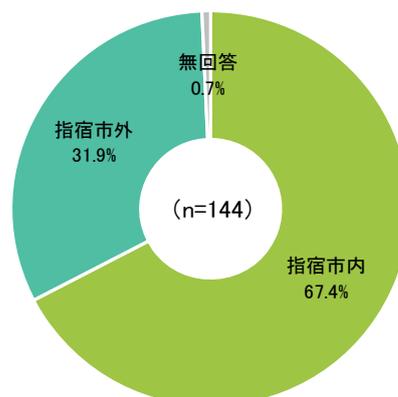
#### ■回答者属性

- 全体のバス利用者 294 人に対し、約半数の 144 人からアンケート調査の回答を得た。
- 利用者の年代は「20 歳未満」の学生（いずれも高校生）及び「75 歳以上」が多く、居住地は約 7 割が「指宿市内」居住者という結果であった。

問1.年齢



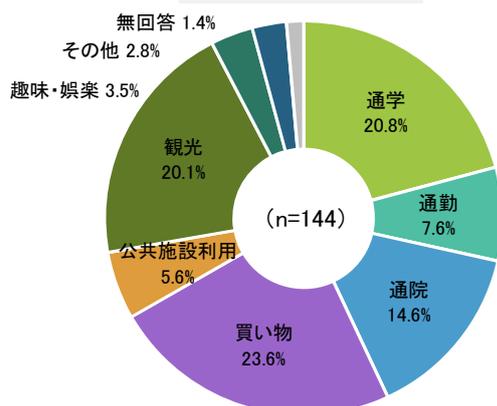
問3.お住まいの地域



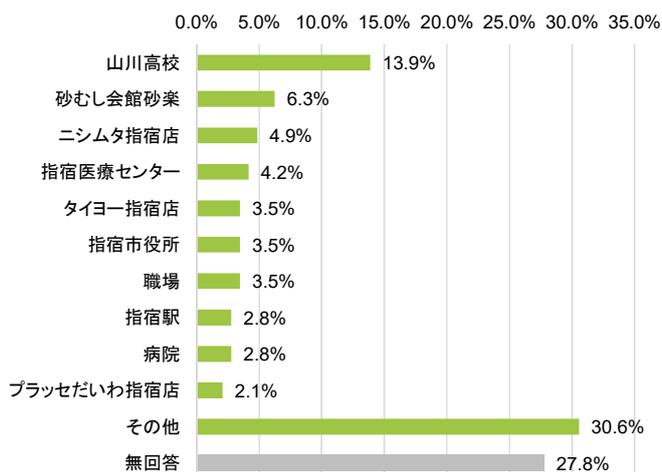
#### ■外出目的・目的地

- 外出目的は、「買い物」、「通学」、「観光」がそれぞれ 2 割程度と多かった。
- 目的地は「山川高校」が最も多く、次いで「砂むし会館砂楽」、「ニシムタ指宿店」となった。

問4.本日の外出目的



問5.本日の目的地(複数回答)

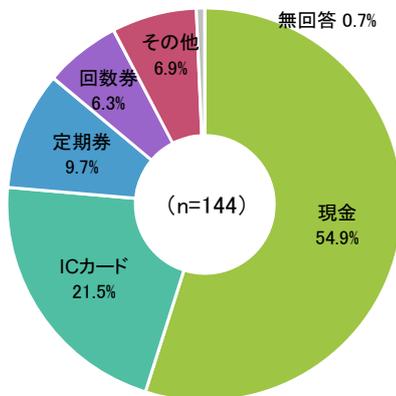


(n=144)

## ■ 運賃の支払い方法

- 「現金」での支払いが過半数を占めており、「ICカード」は2割程度であった。

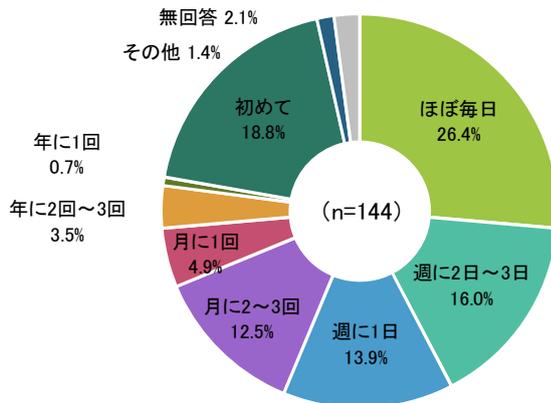
問6. 運賃の支払い方法



## ■ 利用頻度

- 「ほぼ毎日」の利用が約26%を占め最も多かった。一方で「初めて」利用した人も2割弱おり、市民の日常利用と観光等の利用で二分される結果となった。

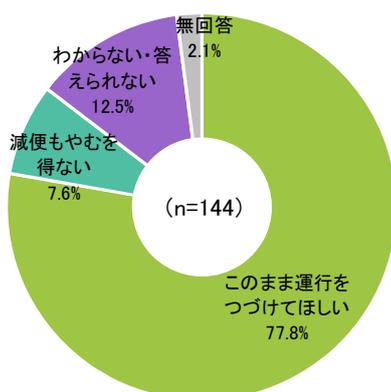
問7. 今乗車している路線の利用頻度



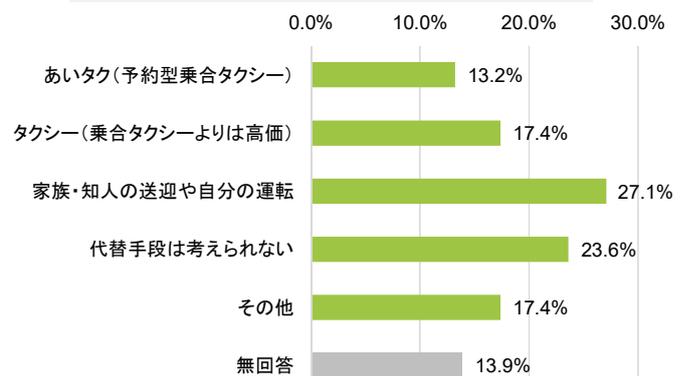
## ■ 今後のバスの運行について

- 「このまま運行をつづけてほしい」と回答した人が約8割と最も多かった。
- 減便・廃止になった場合の代替手段は、「家族・知人の送迎や自分の運転」が最も多い一方で、「代替手段は考えられない」との回答も2割以上見られた。

問8. 今後のバスの運行について



問9. バスが減便・廃止になった場合の代替手段 (複数回答)

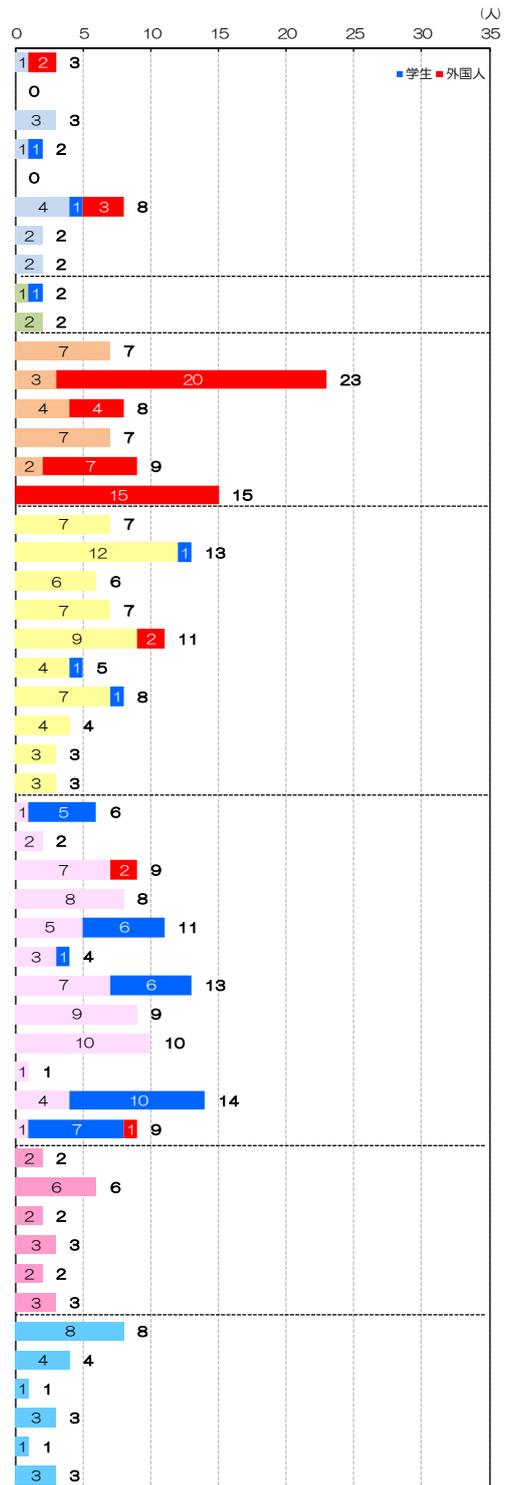


## ■OD 調査結果

- 一日の総利用者数は約 300 人で、そのうち外国人観光客が約 2 割を占める結果となった。
- また、学生利用も 14%を占め、日常の生活交通と観光交通の両面を持つ特徴が伺える。
- 観光では、「エコキャンプ場⇄池田湖」線の利用が多く、便によっては乗客が外国人のみの路線も見られた。通学では、「なのはな館⇄東大川」線の利用者が多かった。
- イッシーバス 2 路線及び「いわさきホテル⇄武家屋敷」線、「活お海道⇄開聞駅前」線においては、1 便当たりの利用者が 2 名以下の便も複数見られた。

◆路線別乗客数

系統	発時刻	路線		往復		乗客			乗車数計		
		起点	終点	往路	復路	日本人 (学生 除く)	学生	外国人			
①	8:45	いわさきホテル	武家屋敷(瀬崎)	○		1	0	2	3		
①	10:15	いわさきホテル	武家屋敷(瀬崎)	○		0	0	0	0		
①	13:15	いわさきホテル	武家屋敷(瀬崎)	○		3	0	0	3		
①	14:45	いわさきホテル	武家屋敷(瀬崎)	○		1	1	0	2		
①	11:09	武家屋敷(瀬崎)	いわさきホテル		○	0	0	0	0		
①	12:39	武家屋敷(瀬崎)	いわさきホテル		○	4	1	3	8		
①	15:39	武家屋敷(瀬崎)	いわさきホテル		○	2	0	0	2		
①	17:09	武家屋敷(瀬崎)	いわさきホテル		○	2	0	0	2		
②	16:50	活お海道	開聞駅前	○		1	1	0	2		
②	7:10	開聞駅前	活お海道		○	2	0	0	2		
③	8:55	エコキャンプ場	池田湖	○		7	0	0	7		
③	10:55	エコキャンプ場	池田湖	○		3	0	20	23		
③	12:55	エコキャンプ場	池田湖	○		4	0	4	8		
③	10:40	池田湖	エコキャンプ場		○	7	0	0	7		
③	12:40	池田湖	エコキャンプ場		○	2	0	7	9		
③	14:35	池田湖	エコキャンプ場		○	0	0	15	15		
④	7:37	山川棧橋	鹿児島金生町(瀬崎)	○		7	0	0	7		
④	9:42	山川棧橋	鹿児島金生町(瀬崎)	○		12	1	0	13		
④	11:57	山川棧橋	鹿児島金生町(瀬崎)	○		6	0	0	6		
④	14:07	山川棧橋	鹿児島金生町(瀬崎)	○		7	0	0	7		
④	16:12	山川棧橋	鹿児島金生町(瀬崎)	○		9	0	2	11		
④	7:54	鹿児島金生町(瀬崎)	山川棧橋		○	4	1	0	5		
④	9:54	鹿児島金生町(瀬崎)	山川棧橋		○	7	1	0	8		
④	12:04	鹿児島金生町(瀬崎)	山川棧橋		○	4	0	0	4		
④	14:34	鹿児島金生町(瀬崎)	山川棧橋		○	3	0	0	3		
④	18:34	鹿児島金生町(瀬崎)	山川棧橋		○	3	0	0	3		
⑤	6:50	なのはな館	東大川(物袋)	○		1	5	0	6		
⑤	9:00	なのはな館	東大川(物袋)	○		2	0	0	2		
⑤	11:00	なのはな館	東大川(物袋)	○		7	0	2	9		
⑤	13:30	なのはな館	東大川(物袋)	○		8	0	0	8		
⑤	15:50	なのはな館	東大川(物袋)	○		5	6	0	11		
⑤	17:20	なのはな館	東大川(物袋)	○		3	1	0	4		
⑤	7:48	東大川(物袋)	なのはな館		○	7	6	0	13		
⑤	8:48	東大川(物袋)	なのはな館		○	9	0	0	9		
⑤	10:58	東大川(物袋)	なのはな館		○	10	0	0	10		
⑤	12:58	東大川(物袋)	なのはな館		○	1	0	0	1		
⑤	15:38	東大川(物袋)	なのはな館		○	4	10	0	14		
⑤	17:48	東大川(物袋)	なのはな館		○	1	7	1	9		
⑥	8:04	開聞山麓自然公園	なのはな館	○		2	0	0	2		
⑥	11:04	開聞山麓自然公園	なのはな館	○		6	0	0	6		
⑥	15:04	開聞山麓自然公園	なのはな館	○		2	0	0	2		
⑥	9:30	なのはな館	開聞山麓自然公園		○	3	0	0	3		
⑥	13:30	なのはな館	開聞山麓自然公園		○	2	0	0	2		
⑥	16:40	なのはな館	開聞山麓自然公園		○	3	0	0	3		
⑦	7:59	八幡神社前	ニシムタ指宿店	○		8	0	0	8		
⑦	10:59	八幡神社前	ニシムタ指宿店	○		4	0	0	4		
⑦	14:59	八幡神社前	ニシムタ指宿店	○		1	0	0	1		
⑦	9:33	ニシムタ指宿店	八幡神社前		○	3	0	0	3		
⑦	13:33	ニシムタ指宿店	八幡神社前		○	1	0	0	1		
⑦	16:33	ニシムタ指宿店	八幡神社前		○	3	0	0	3		
統計						25	25	197	41	56	294



## 6. 駅及び港利用者ヒアリング調査

### (1) 調査概要

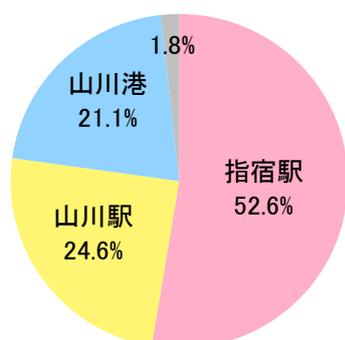
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、市内交通結節点の利用動向を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	市内主要交通結節点利用者 (対象施設：指宿駅、山川駅、山川港)
調査方法	アンケート調査（直接配布・郵送回収）
実施期間	令和5年7月12日(水)配布～7月31日(月)回収（20日間）

### (2) 調査結果

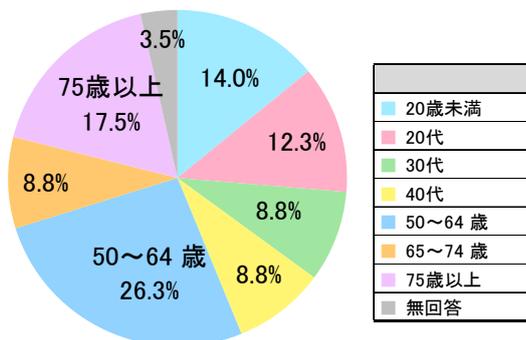
#### ■回答者属性

- 調査日当日に市内の主要交通結節点を利用した人のうち、57人から回答を得た。
- 回答は「指宿駅」で最も多く獲得し、次いで「山川駅」、「山川港」となった。
- 回答者の年齢は「50～64歳」が約26%で最も多く、次いで「75歳以上」となった。
- 居住地は「指宿市内」が約54%、「指宿市外」が約42%となった。

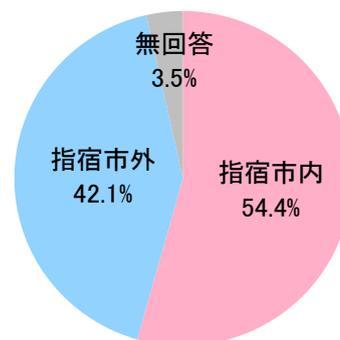
問 1-1. 調査票を受け取った場所



問 5-2. 年代



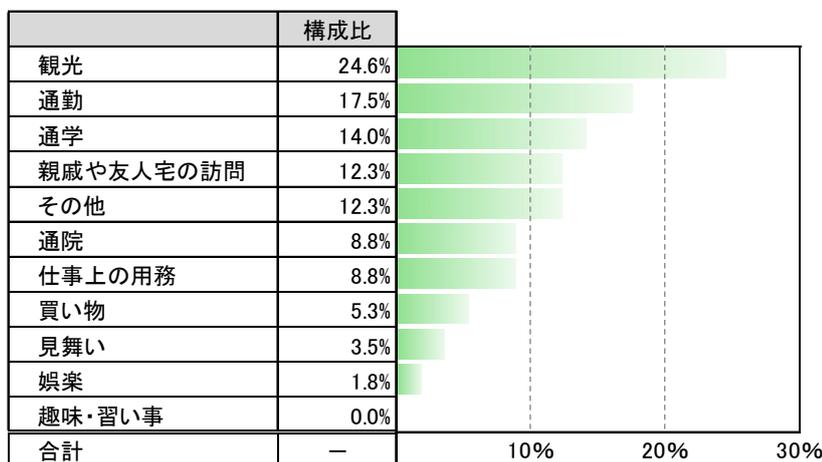
問 5-1. 居住地



#### ■外出目的

- 調査日当日の外出目的は、「観光」が約24%と最も多く、次いで「通勤」、「通学」となった。

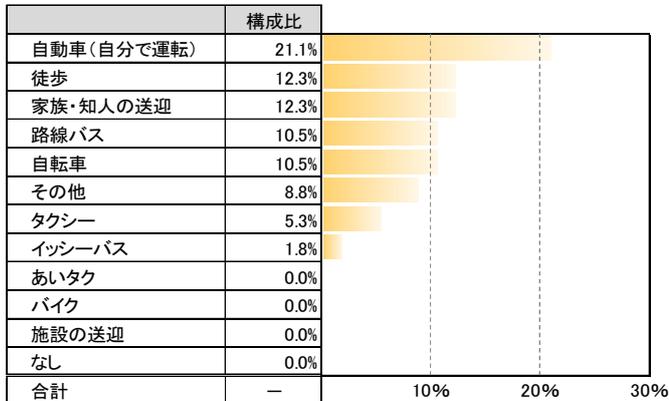
問 1-2. 外出目的



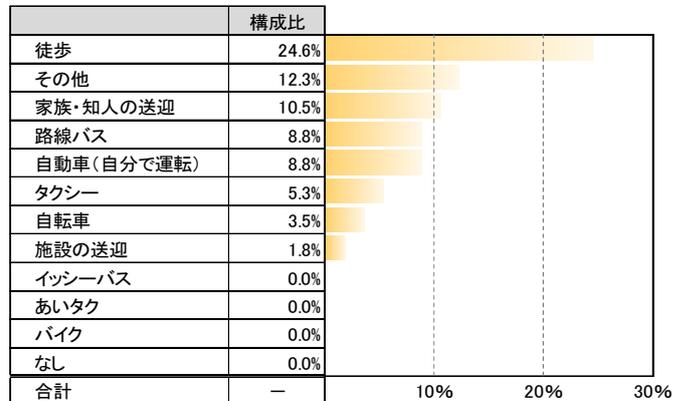
## ■ 移動手段

- 当日の移動手段については、自宅から駅や港までは「自動車（自分で運転）」で移動する人が最も多く、駅や港から目的地までは「徒歩」で移動する人が最も多い。

問 1-3. 当日の移動手段(自宅から駅・港まで)



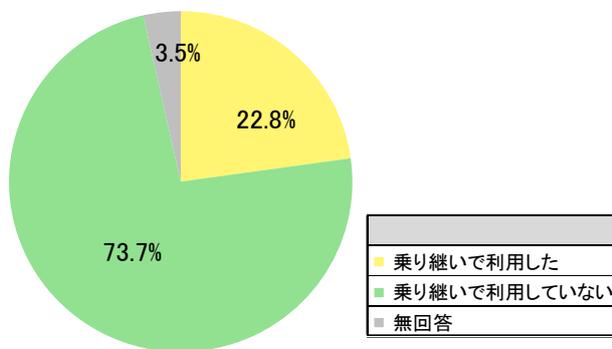
問 1-3. 当日の移動手段(駅・港から目的地まで)



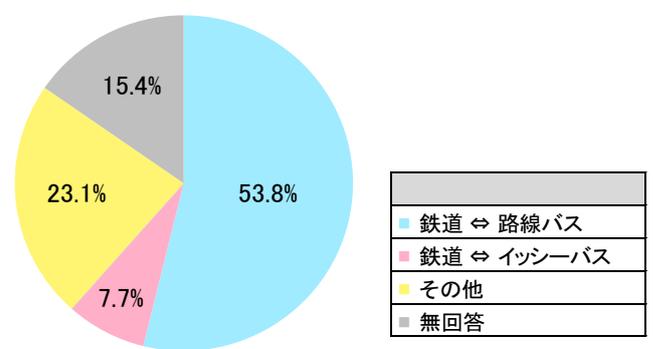
## ■ 公共交通の乗り継ぎについて

- この1か月で指宿市内で公共交通を「乗り継いで利用した」人は約22%、「乗り継いで利用していない」人は約73%となった。
- 乗り継いで利用した人のうち、乗り継ぎの方法としては「鉄道⇔路線バス」の乗り継ぎが半数以上を占め、最も多い結果となった。

問 2-1. 公共交通の乗り継ぎについて

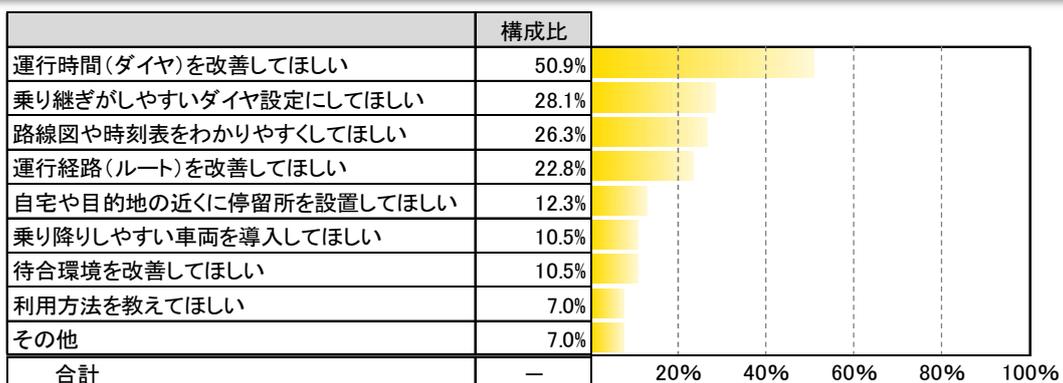


問 2-3. 公共交通の乗り継ぎパターン



## ■ 指宿市の公共交通における改善点

- 指宿市の公共交通における改善点については、「運行時間(ダイヤ)を改善してほしい」や、「乗り継ぎがしやすいダイヤ設定にしてほしい」といった、ダイヤに関するご意見が多く寄せられた。



## 7. あいたく利用者ヒアリング調査

### (1) 調査概要

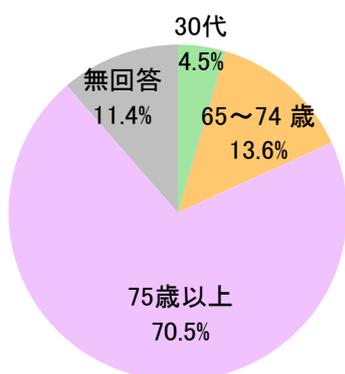
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、あいたくの利用状況や利用者の要望を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	あいたく利用登録者（112名）
調査方法	アンケート調査（郵送配布・郵送回収）
実施期間	令和5年7月18日(火)～8月4日(金)（18日間）

### (2) 調査結果

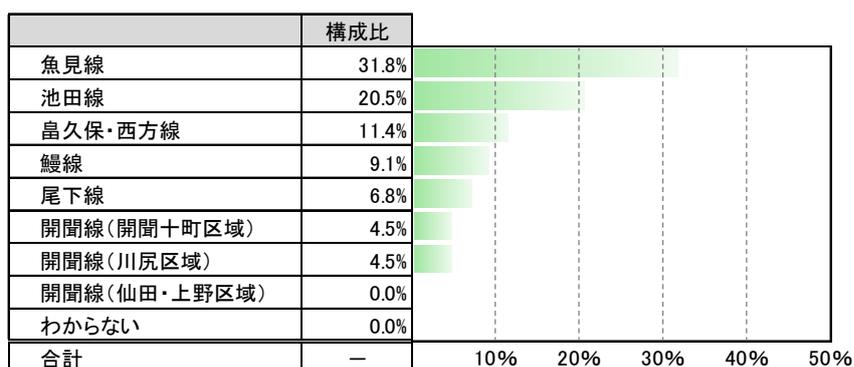
#### ■回答者属性

- あいたく利用登録者112人のうち、約4割の44人から回答を得た。
- 回答者の年齢は「75歳以上」が7割以上で最も多く、次いで「65～74歳」となった。
- 利用している路線は「魚見線」が約31%で最も多く、次いで「池田線」となった。

問4-2. 年代



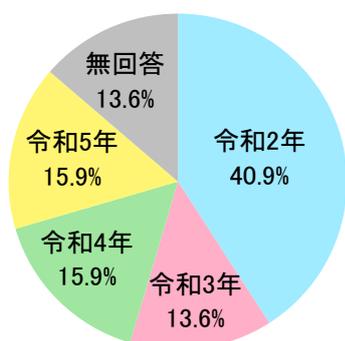
問4-1. 利用している「あいたく」の路線



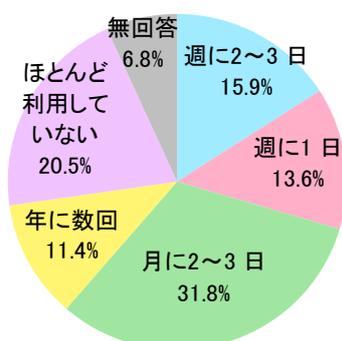
#### ■あいたくの利用について

- あいたくの利用登録を行った時期は、「令和2年ごろ」が約4割で最も多く、その後も令和3年～5年まで、毎年約15%程度で利用登録が行われている。
- 利用頻度は「月に2～3日」が約31%で最も多く、次いで「ほとんど利用していない」人が約2割となった。
- 目的地へ行くときに「あいたく」を利用した場合、帰りも「必ず利用している」人は半数以上、次いで「利用することが多い」と回答した人も約13%見られた。

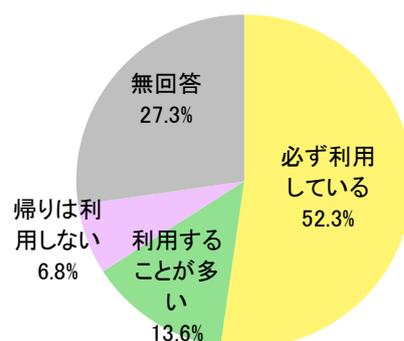
問1-1. 利用登録時期



問1-2. 利用頻度



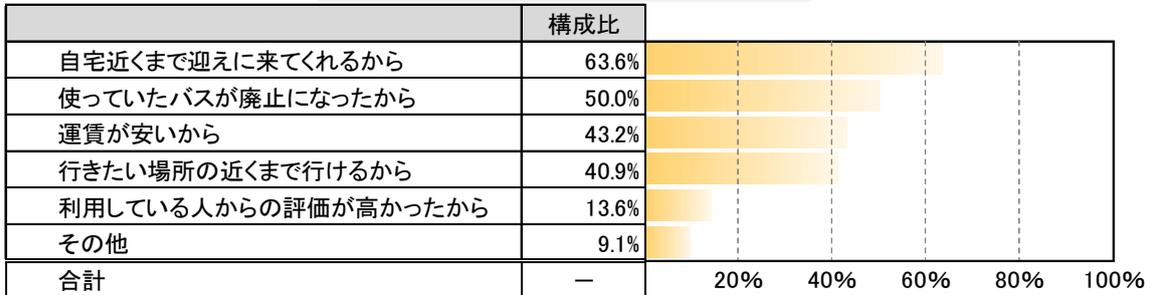
問1-3. 帰宅時の「あいたく」利用状況



■ あいタクを利用する理由

- あいタクを利用する理由としては、「自宅近くまで迎えに来てくれるから」が6割以上で最も多く、次いで、「使っていたバスが廃止になったから」、「運賃が安いから」、「行きたい場所の近くまで行けるから」などとなっている。

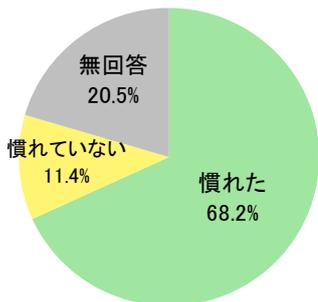
問 1-5. あいタクを利用する理由



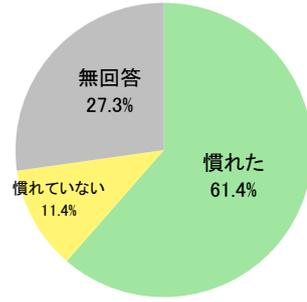
■ あいタクの予約方法や乗車方法について

- あいタクの予約方法や乗車方法については、どちらも「慣れた」と回答した人が6割以上となっている。

問 1-6. 予約方法



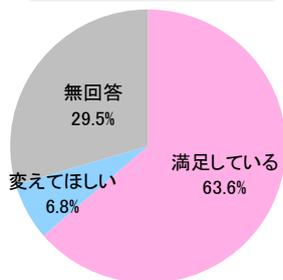
問 1-6. 乗車方法



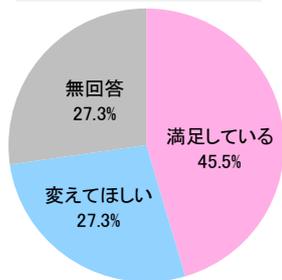
■ 運行に関するご意見・ご要望について

- 行先や運行本数、運行曜日については半数以上が「満足している」と回答した一方で、運行時間帯については「満足している」と回答した人が半数以下（約45%）に留まった。
- 運賃の値上げについては「100円まで」の値上げであれば利用したいと回答した人が約5割で最も多かったが、「200円以上もやむを得ない」と回答した人も一定数見られた。

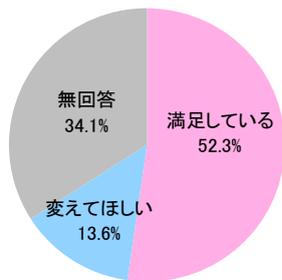
問 3-1. 行先



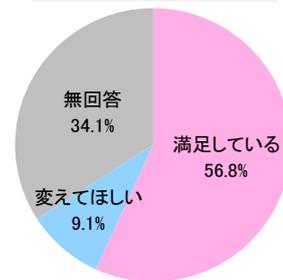
問 3-1. 運行時間帯



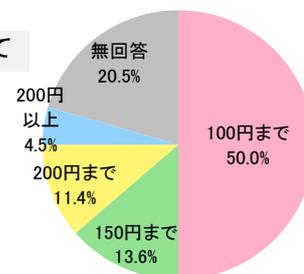
問 3-1. 運行本数



問 3-1. 運行曜日



問 3-2. 片道運賃の値上げについて



## 8. 観光客アンケート調査

### (1) 調査概要

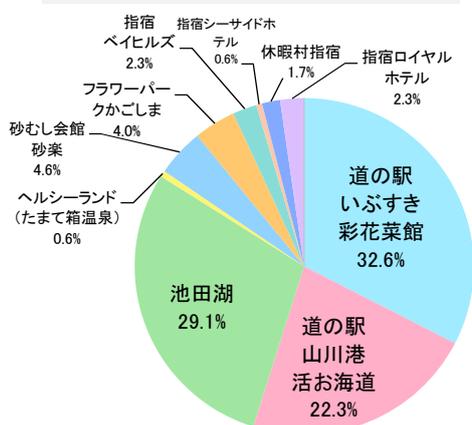
調査の目的	指宿市の今後の公共交通体系の構築にあたり、観光施設及び宿泊施設への移動手段、滞在中の移動手段を把握するため、調査を実施するものである。
調査対象	市内観光施設利用者 (対象施設：道の駅いぶすき彩花菜館、道の駅山川港活お海道、池田湖、ヘルシーランド(たまた箱温泉)、砂むし会館砂楽、フラワーパークかごしま、指宿ベイヒルズ、指宿シーサイドホテル、休暇村指宿、指宿ロイヤルホテル)
調査方法	直接聞き取り調査、アンケート調査(施設にて配布・郵送回収)
実施期間	聞き取り：令和5年7月12日(水) [天候：晴] 回収期間：令和5年7月12日(水)～7月31日(月) (20日間)

### (2) 調査結果

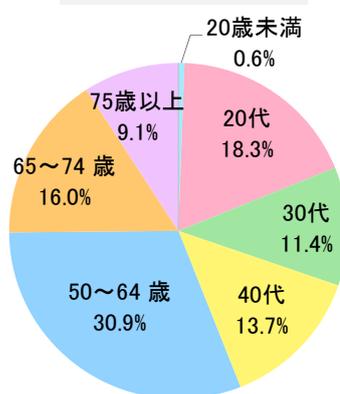
#### ■回答者属性

- 調査期間中に市内の観光施設を利用した人のうち、175人から回答を得た。
- 回答は「道の駅いぶすき彩花菜館」で最も多く獲得し、次いで「池田湖」、「道の駅山川港活お海道」となった。
- 回答者の年齢は「50～64歳」が約26%で最も多く、次いで「20歳代」となった。
- 居住地は「指宿市外(鹿児島県内)」が約5割で最も多く、次いで「指宿市外(鹿児島県外)」が約3割、「指宿市内」が約17%となった。

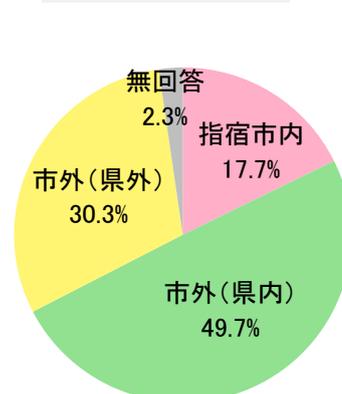
問1. 調査票を受け取った場所



問7-2. 年代



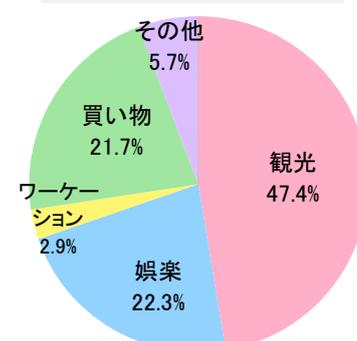
問7-1. 居住地



#### ■施設利用目的

- 調査対象の観光施設利用目的は、「観光」が約5割で最も多い一方、「ワーケーション」での利用も一定数見られた。

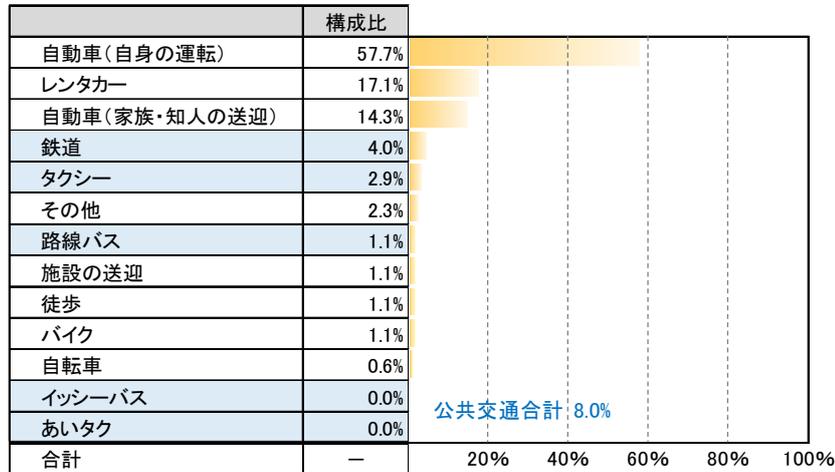
問2. 施設利用目的



## ■ 移動手段

- 当日（もしくは滞在中）の移動手段については、「自動車（自身の運転）」が最も多く、次いで、「レンタカー」となった。公共交通の利用率は全体で8%に留まった。

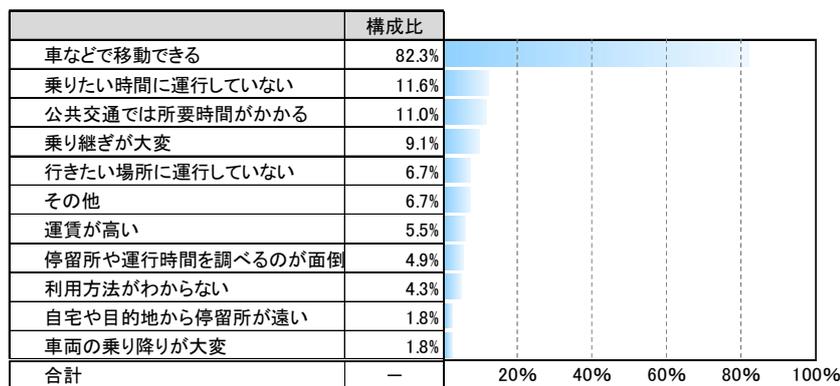
問 3. 移動手段



## ■ 公共交通を利用しない理由

- 公共交通を利用しない理由としては、「車などで移動できる」が8割以上と最も多かった。

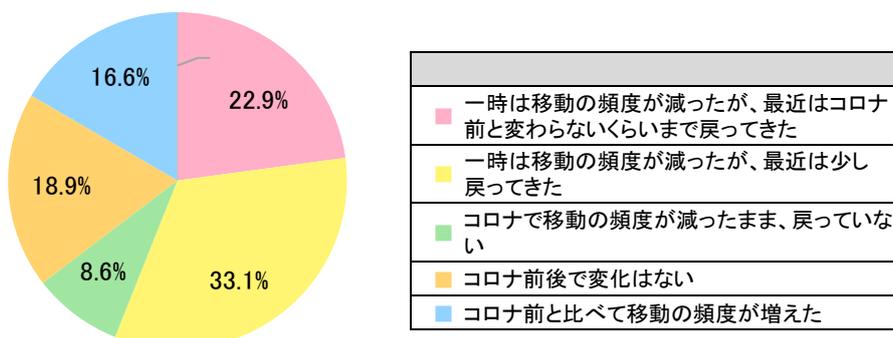
問 4. 公共交通を利用しない理由



## ■ コロナ禍を経た外出頻度の変化

- 約8割が、コロナ禍を経た外出頻度の変化が「あった」と回答し、そのうち約23%が「コロナ前と変わらないくらいまで戻ってきた」、約33%が「少し戻ってきた」と回答した。また、「コロナ前と比べて移動の頻度が増えた」と回答した人も約16%見られた。

問 6. コロナ禍を経た外出頻度の変化



## II. 交通事業者ヒアリング調査の結果

指宿市における交通事業者ヒアリング調査の結果を下記に整理します。

	(1) 現在実施しているサービスについて			(2) 今後の指宿市の公共交通サービスについて				
	① 近年の利用状況、収支など	② 現状のリソースの状況	③ 現在抱えている課題	① 将来的な運行エリアについて	② 指宿市で進めるべき取組	③ アフターコロナの外出・観光需要への対応	④ 他交通機関との連携可能性	⑤ その他
JR九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況は<b>コロナ前の8～9割</b>。</li> <li>平日は<b>通勤・通学利用が主</b>。</li> <li>指宿のたまたま箱の乗車率は6～7割程度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指宿枕崎線で使用している<b>車両は2両</b>。(他線区にも乗り入れるため正確な数は不明)</li> <li><b>運転手は50～60歳代が多い</b>。(60歳定年、70歳までは再雇用可能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>人手不足が大きな課題</b>である。</li> <li>中途採用等も進めているが、65歳で8～9割が退職する傾向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行エリアに関する考え方については、国の方針が出るのを待っている状況。</li> <li><b>まちづくりと一体になり地域を盛り上げる仕組み</b>があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なのはなマラソンなどの<b>集客イベント</b>を継続して行ってほしい。</li> <li><b>二月田駅周辺</b>の再整備と併せ、<b>駅の利便性向上</b>について検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>駅から各観光地へのアクセス</b>が課題</li> <li><b>駅前商店街の活性化</b>も期待</li> <li>西大山駅は電車ではなく車で訪れる人が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>駅からの連携を強化</b>してほしい。(JRとしては、鹿児島中央駅での接続を中心としたダイヤ構成としている。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通系ICを利用したいという要望がある。</li> <li>令和5年10月よりタッチ決済自動改札機の実証実験を開始。(鹿児島中央～指宿駅間)</li> </ul>
鹿児島交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗車率は、<b>鹿児島空港線でコロナ前の5～6割、一般路線バス全体で6～7割</b>。</li> <li><b>一般路線バス</b>については、自主路線、補助系統ともに<b>赤字</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>指宿営業所の車両は25台</b>。</li> <li><b>運転手は14名在籍。内10名が60歳以上</b>。</li> <li>平日1日あたり11名で運行している。</li> <li>待合環境は修繕より撤去の方向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>人手不足が一番の課題</b>であり、改善されないとバス事業の継続自体が難しい。</li> <li><b>観光客と一般住民の足の両立</b>が課題。(地域住民は平日、観光客は土日祝日など活動時間帯が異なる。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続のため、<b>バス路線の集約</b>を進めている。(地域間幹線系統の廃止代替化、廃止代替バスの集約)</li> <li><b>コミュニティバスの他交通モードへの転換</b>についても引き続き検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議をしながら、<b>どの路線を残すか検討</b>することが重要。</li> <li>運転手に限らず<b>市内で就職する仕組みづくり</b>を。</li> <li><b>労働環境改善のため賃金補助等</b>があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>池田湖線</b>について、需要の高いバス停のみに停車する<b>特急性を持たせた観光周遊バス</b>とすることも<b>考えられる</b>。</li> <li>外国語対応は行っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タクシーや自家用有償旅客運送などと<b>役割分担をし、市民の足を確保</b>していく必要がある。</li> <li>運転手のシフトを基に運行ダイヤを組んでおり、<b>JR全便の接続を加味したダイヤ設定とはなっていない</b>。</li> </ul>	
タクシー協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況は<b>コロナ前の8割程度</b>。</li> <li>日中は<b>高齢者と観光客の利用が多い</b>。夜はお酒を飲んだ方が利用。</li> <li>収支は<b>助成金を踏まえると黒字</b>。あいタク運行により経営が<b>改善</b>した事業者も。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>車両数は、タクシー協会全体で63台</b>。</li> <li><b>運転手は、協会全体で51名在籍</b>。</li> <li><b>運転手は半数以上が70歳以上</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>人手不足と乗務員の高齢化が課題</b>である。</li> <li><b>2種免許取得のハードル</b>が高い(費用・期間等)。</li> <li>収入が低く専業では生計を立てることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中は<b>余力があり、バスが廃止された場合の代替手段にもなり得る</b>。</li> <li><b>新規の採用が難しく現状の運転手で取り組むしかないため、長く続くかはわからない</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人手不足解消のため、<b>外国人労働者を雇用できる仕組み</b>を構築してほしい。</li> <li><b>2種免許取得のための助成金</b>がほしい。</li> <li>副業やパート社員のように、<b>短時間労働の雇用も可能</b>。(会社への登録は必要)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語対応は特にしておらず、外国人が乗車した際はスマホで翻訳しながら対応を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいタクについては<b>一括で予約センターを置くことを検討してもよい</b>。</li> <li><b>全体の空車状況を把握し一括で配車できる仕組みがあるとよい</b>が、AI導入などのコストを鑑みるとハードルは高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>グリーンスローモビリティ等の低速車両</b>であれば高齢ドライバーであっても運転できる可能性あり。</li> <li>公共交通だけでなく<b>シェアサイクルや電動自転車椅子等での移動</b>も検討できないか。</li> <li>交通だけでなく、<b>居住地域の最適化</b>も同時に進めるべきである。</li> </ul>
フェリー なんきゅう	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況は<b>コロナ前と同程度まで復活</b>。</li> <li>通常は鹿児島ナンバーが多く、お盆・GW等は県外ナンバーやレンタカーが9割。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>船舶は1隻</b>。</li> <li><b>乗務員は、船員6名在籍</b>。</li> <li>待合所他陸上施設は県の施設を無料で使用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状で船員は確保できているが、余裕があるわけではない。</li> <li>船舶も現状は問題ないが少しずつ修理・整備費用が増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダイヤ変更はない。</li> <li>船を新替える際には大きくする予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後とも協力いただきたい。</li> </ul>			
種子屋久 高速船	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況は<b>コロナ前の5割</b>。</li> <li>コロナ前は団体客がメインだったが、現在は個人客メイン。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>船舶は6隻</b>。</li> <li><b>乗務員は、船長8名、一等航海士10名在籍</b>。</li> <li>若い運転手も入社しており、<b>人手不足には陥っていない</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>コロナ前の状況へ復活させることが課題</b>である。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>指宿からも<b>高速船を使って屋久島へ行くことをPR</b>してほしい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li><b>下船後に次の目的地まで向かうためのタクシーとの連携</b>を強化したい。</li> </ul>	

### III. 観光団体ヒアリング調査の結果

指宿市観光協会へのヒアリング調査の結果を下記に整理します。

<b>1. いぶたま（特急 指宿のたまて箱）の利用状況について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>9:56 鹿児島中央駅発⇒10:47 指宿駅着の1号に乗りし、15:07 指宿駅発⇒16:00 鹿児島中央駅着の6号で帰路につく人が多い。その場合、<u>指宿市内の滞在時間は4時間程度であり、その中でいかに効率的に観光地を回るかが重要</u>である。</li></ul>
<b>2. 快速なのはなの利用状況について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>市内を長く楽しみたい方は、いぶたまより早い時刻に到着する7:51 鹿児島中央駅発⇒8:59 指宿駅着の列車に乗ってくる方も多いが、その場合は<u>主要観光地を巡る路線バス（知林ヶ島⇄池田湖線）の指宿駅発車時刻9:05まで6分しかない</u>。列車を降りてから飲物を買ったり、観光案内所へ寄って情報収集をしたりする時間もなく、観光案内所へクレームが寄せられることも多々ある。</li></ul>
<b>3. バスの利用状況について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li><u>外国人は、タクシーよりもバスの利用が圧倒的に多い。</u></li><li>日本人も2人組であればバス利用が多い。</li><li>観光利用が多い路線は、「<u>池田湖⇄エコキャンプ場線</u>」「<u>指宿⇄鹿児島金生町線</u>」である。</li><li><u>一日乗車券が人気</u>であり、月平均100枚、5月は200枚販売した。外国人は口コミ等で一日乗車券についての情報を得ているようである。</li></ul>
<b>4. タクシーの利用状況について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li><u>タクシーはバスに比べると利用者は少ない。</u>4人程度の日本人の団体であれば利用するようである。</li><li>外国人にとっては、言葉が通じない中でタクシーを呼ぶことは難しく敬遠されており、滞在先の施設の方が代理で電話をしたり、観光案内所へ配車依頼の連絡が入ったりする。</li></ul>
<b>5. 現状の課題と今後の要望について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li><u>バスの本数が少なく、乗り継ぎも悪いことが課題とを感じる。</u>例えば、いぶたまで10:47に指宿駅に到着した人がバスを使って唐船峡へ行こうとすると、帰りのバスまで滞在時間が40分程度しかとれないダイヤとなっている。また、指宿駅へ戻ってきてからいぶたまが発車するまでは1時間以上空いてしまうが、駅前でお土産を買ったり散策できる場所もない。<u>観光客は、そうめん流しと砂むし、そのほかに1箇所くらいは回りたいと考えている人が多いが、そのような移動が叶わない。一日乗車券も使い切れない状況</u>であり、観光案内所としても申し訳ない気持ちがある。</li><li><u>土日祝日は観光客が多いにもかかわらず平日よりも便数が少なく、更に不便な思いをさせてしまっている。</u></li><li>コロナも落ち着き、<u>現在の観光客は日本人よりも外国人が多い</u>状況である。<u>台湾や香港からの来訪者が8～9割</u>を占めている。しかし、バス停には日本語表記しかなく、案内所で説明しても理解してもらうのは難しい。<u>バス停やバスの系統（行先表示）にアルファベットやナンバリングがされているとわかりやすいと思う。</u></li><li>全体的な増便が難しいのであれば、<u>市内の観光地を巡る定期観光バスを運行してはどうか。</u>2～3千円であっても、時間を有効に使うことができるのならば利用者は多いと思う。</li></ul>